

登録コード	E4605900	開講年度	2026				
授業科目	国語科評価論					担当教員	大井 和彦
英文授業名						副担当	八木 雄一郎・西 一夫
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生	2-4
講義室	教育N 2 0 1 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	児童・生徒の国語学習の状況を評価する教育の専門家に求められる態度を身に付けることができる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	専門的な知識・技能に基づいて国語学習の評価する問題を開発することができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	中高国語科における指導と評価の対応について、その理解を深め実践に活かす知識を獲得し、教育活動・学習活動としての国語科教育を客観視する姿勢を養う。						
(5)授業計画	第1回 オリエンテーション 評価論とは何か・この講義で大切にしたい【オンデマンド】 第2回 評価の見方ー診断的／形成的／総括的評価・三層モデル（再生／生成／揺れ） 第3回 評価の制度的整理ー観点別評価／評価規準／記録と評定【オンデマンド】 第4回 指導と評価の一体化①ー教科書と学習材 第5回 指導と評価の一体化②ー授業動画分析 【オンデマンド】 第6回 「思考力・判断力・表現力等」①ー読むこと【オンデマンド】 第7回 「思考力・判断力・表現力等」②ー話す・聞く・書く 第8回 「主体的に学習に取り組む態度」の評価ー内面と行為の関係 第9回 知識・技能の評価ー評価としてどう扱うか 第10回 単元構想①ー教材・大きな問い 第11回 単元構想②ー教師として見取りたいポイント・どの活動で何を見るか 第12回 単元構想ワークー全体共有・評価観の明確化 第13回 評価観の言語化ー単原案整理・レポート準備【オンデマンド】 第14回 単元構想・評価観の共有と整理 講義全体の振り返り・授業アンケート						
(6)成績評価の方法	各講義内容に関するLMSワーク（含 講義中課題ワークシート等）を適宜課す。評価は、最終レポートならびにLMSワークの内容を以て判断する。 評価要素の割合：講義中 課題等ー30%、振り返り-30%、最終レポートー40%						
(7)成績評価の基準	秀：講義内容を十分に理解し、かつ探究的課題を自ら見つけ取り組みながら、評価に関する深い自己省察を行っている。 優：講義内容を理解し、興味を持った探究的課題に積極的に取り組みながら、評価に関する思考を行っている。 良：講義内容をほぼ理解し、十分に課題に取り組んだ。 可：講義内容をある程度理解し、課題に取り組んだ。 不可：講義内容の理解・参加意欲が不十分である。						
(8)事前事後学習の内容	事前には、各予定内容に対する予習の課題ならびに講義中課題を出すことがある。それを基に講義に参加し、事後はそのまとめを行う。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	国語科教員としての自覚と省察の姿勢を養うべく、積極的な参加を願います。 担当教員の業務都合により、一部の回でオンデマンドになります。日程確認をよく行ってください。また、それに伴い、状況によって内容が前後することもあります。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談は授業時に対応する。またメールでも可能。 研究室：中校舎M406 アドレス：kazuhiko_oi@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	『中学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社） 『高等学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社）						
【参考文献】	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所） 『よくわかる教育評価 第3版』ミネルヴァ書房 『教育評価』岩波書店 その他 適宜関するものを紹介する						